

「室内の環境を測る－ビル・住まい・学校環境－」

村松 學 監修, 村松 學・松村年郎・岡本繁雄 共著

A5版, 218ページ, ¥3,000
(オーム社, 2005年5月20日発行)

現代の多くの人々は、毎日の生活時間の大部分をビル、住宅、学校等の室内で過ごしている。これらの人々にとって、室内の温・湿度管理や空気汚染は、健康管理の上でも重要課題である。

室内環境の問題は、化学物質に由来する化学物質過敏症、シックビルディング症候群、シックハウス症候群、シックスクール症候群など、社会の大きな関心事となっている。行政的には「室内環境のガイドライン」(厚生労働省)が定められ、「建築基準法関連の改正」も行われている。実際には室内環境を把握するため、建築物衛生法による環境測定、特定建築物では室内環境測定が義務づけられ、さらに学校環境衛生においても学校薬剤師等により、温湿度や浮遊粉じんなどの測定のほか、VOC濃度測定も行われている。

本書は「室内の環境測定」を行うにあたって、第1章では環境基準、測定の基礎知識が記載され、第2章では基本的な温湿度、気流、放射熱の測定法、浮遊粉じん・振動・騒音などの物理的要因の測定のほか、ダニアレルゲン・細菌・真菌の測定法が記載されている。第3章では室内空気汚染の最大関心事である化学物質の測定法がわかりやすく解説され、第4章では換気量測定、喫煙による室内空気の汚染、第5章では建築物衛生法について、紹介されている。特に測定法では簡易測定法から、最近の高度な機器分析に到るまで紹介され、各測定法の原理、測定に於る注意点、解析、記録法にわたって記載されている。また巻末には参考文献が多く収録され、さらに詳細に調べる際は便利である。

本書は、環境衛生関係の行政担当者、環境測定業者、ビル管理技術者にとどまらず、環境関係の大学生、室内環境問題に関心のある一般人にも有用な著書と思われる。

(東海大学 健康科学部 教授 松木秀明)